

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、これまでも実践の中から学んだことを事業所としての理念として共有し「本人本位・利用者中心」の支援に努めている。	玄関やホールに理念が掲示されている。職員は理念を共有しながら、「本人本位・入居者中心」の支援を地域生活の中で実践している。この理念を基本として、入居者や家族、外部へ発信をしていく方針である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の小学校との交流会や学生のボランティアの職場体験も受け入れている。地域の運動会へ招待してもらったり祭りに作品を出展したりと地域の一員として交流している。又ホームでの祭りの案内のチラシ配りなどもご近所へ行ないお誘いができた。	自治会費を納入し地域の一員として行事や清掃活動にも参加している。地元地区の住民自治協議会の協力もあり、地域に密着した生活を送っている。隣接地にある小学校との交流や散歩の際の挨拶など近所の方とふれあう機会が多い。ホームの夏祭りには近隣にチラシを配り、新しい交流も生まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来訪時に相談にのったりアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に行ない利用者の生活の様子やサービスの状況等の報告をし意見交換も行っている。又行事への参加をして頂き、食事等を一緒にしていただきながら利用者の生の声を聞いて頂く機会も設けた。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催しており、家族、区長、民生委員、市介護保険課職員、地域包括支援センター職員等が出席している。ホームの実情や課題について資料を作り報告し、意見を求めサービスの向上に励んでいる。区長にお願いし地域の情報を得るため回覧板も回してもらうようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加依頼を行ない出来る限り参加して頂いている。会議にて事業の実情やサービスの取り組みを伝える必要に応じアドバイスして頂いている。あんしん相談員の訪問は毎月あり協力関係が築けている。	市介護保険課、地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席しており、ホームの取り組みを理解し意見や助言を頂くなど市との協力関係が出来ている。毎月市派遣のあんしん相談員が訪れており入居者と話したりホームとの連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時の「勉強会で禁止の対象となる具体的な行為を学び正しく理解している。玄関の施錠等の一切の拘束は行っていない。	施錠は夜間のみで全ての拘束的行為は行われていない。勉強会で具体的な事例にて学び職員も正しく理解しており、本人本意の自由な生活を送れるように拘束に頼らないケアを実践している	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち日常のケアの中で発生のないよう職員全員が意識している。又その状況にあった場合は全員で話し合ったり個別にその都度注意するよう努めている。		

グループホームあさかわ・あじさいユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者はグループホームネットワーク会議又は、研修会等で学ぶ機会を持つことができおりミーティングにて職員に周知している。現在まで必要のある方はいないが、必要時関係者と話し合い支援できる体制づくりは出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等には書面を使用し説明を行っている。不安や疑問には丁寧に対応し理解や納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に一年毎交代で家族代表にて参加してもらって意見を出してもらっている。意見要望があればミーティング時に話し合い運営に反映させている。	運営推進会議に出席した家族や面会に訪れた家族にホームに対する意見や要望を聞いている。頂いた意見・要望は職員全員で検討し運営に反映させている。ホームで企画し入居者と家族が共に楽しんだバス旅行は大勢の家族から感謝された。3ヶ月毎に発行する「グループホームあさかわ通信」を家族のもとへ送り、コミュニケーションを取る手段としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティング時には運営者・経理担当者など全員参加し職員の意見等を聞く機会を設けている。又利用者の受け入れや職員交代の際は各リーダーの意見を聞き相談しながら行っている。	管理者は常に職員と会話し意見交換をしている。ミーティングの際は職員が自分の考えや意見を述べ双方向で活発な意見交換しており運営に反映させている。急ぎの話はメールを使い意思疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、日常的に管理者や、職員の顔が見える位置におり現場での職員の個々の努力や実績・勤務状態を把握し職場環境・条件等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、日常的に現場での職員個々の実際と力量を把握できる状況にあり経験年数や力量等を管理者と相談し研修を受ける機会の確保をし、ステップアップを進め代表者の関係で便宜が図れるときは積極的に声をかけてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワーク会議への参加をし勉強会や同業者との情報交換や意見交換をしている。相互訪問等についての話もあったが各ホームでも人員の問題もあり実現に繋がっていないのが現状である。		

グループホームあさかわ・あじさいユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅へ訪問し直接本人と会い不安なこと、困っていること、求めていることなどを聴く機会を作り、受け止めるよう努めている。またホームの方へも来て頂きホームの様子などを見て頂く機会も設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅への訪問やホームの方へ来た時に困っている状況、不安なこと、求めていることの相談にのれるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の実情や本人の意向を聞き又ケアマネージャー等からも十分な情報を得るなどをし、見極めを行い他のサービス利用にての対応も考慮に入れた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者それぞれの出来る事を把握し一緒に行なったり教わったりしながら支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話の際には本人の状況を報告したり定期受診の対応をしてもらっている。ホームでの行事の際には参加を呼びかけ一緒に参加してもらうことで本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室など家族より情報を取り可能な限りよく利用していた所へ行けるよう努めている。	入居前からの友達が見え居室で話を楽しんでいる。自宅のある地域の敬老会に参加したり、正月の家族・親戚が揃う機会に外食に誘われ出かける入居者もいる。ホームとしても正月など折にふれ帰宅できるよう働き掛けている。「グループホームあさかわ通信」を発行し家族のもとへ送っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の中で、食卓の席など気の合う方同士にしたり又、他者との関わりが苦手な方でも話を聞くのが好きだったりするので、一人ひとりが居心地の良さそうな工夫を行っている。		

グループホームあさかわ・あじさいユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在まで該当者がいなかったため支援の実施はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフからすると疑問に思うような行動があっても、何故そのようにするのか考え話し合い、ためしてはフィードバックし繰り返して対応していき、なるべく本人の希望に添えるケアとなるよう努めている。	会話が可能で自分がしたいことをできる入居者には声をかけ確認している。意思表示が困難な場合には日頃の行動の中から入居者が何を望んでいるのかを考え職員間で話し合い、その思いや希望を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握するには限界があり家族でもわからないことが沢山あるようでも、本人が好む行動・生活を見、又本人を見て想像し、何が本人にとって良いのか考え対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活においてコミュニケーションを主に良い状態・悪い状態を見極めている。良い状態であれば小さなことでも成功できるように支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回のスタッフミーティング時に各利用者の現況を話し合い、その時々に応じた介護計画を作成したりその日の勤務者でアイデアを出し合いケアの工夫をしている。	3か月に1回の見直しを行っている。司会は職員が交代で行い、全体で介護計画の作成や見直しが出来ている。月2回の会議の際、ユニット毎に全職員が気づきを記入し、それを基に全員で携わっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画や短期間で実践した結果・状態については全スタッフが目を通せる記録があり、情報は共有出来、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方の為受診に同行できない方にはスタッフが付き添ったり、美容院への送迎等行なったり、1対1での小旅行を実践したり、多機能とは言わないまでも一人ひとりのニーズを把握し対応出来るよう努力している。		

グループホームあさかわ・あじさいユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に習字・手芸品等を出品したり、同じ法人の経営する他事業所での祭りに参加したりと地域の中で安心して生活でき他者と交わる機会を増やすようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や看護師とはその都度連絡したり連絡を受けられる関係が築けており、的確な指示のもと適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は本人・家族の希望に沿っている。受診については原則として家族が行うようになっているが都合の悪い時はホームで付き添っている。家族と受診の際外食を楽しめる入居者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に情報交換出来ている。看護師も全利用者の生活状況を実際に見て関わることで把握でき必要に応じた対応を介護職に指示している。正確な判断が職員の安心を保ち利用者の安心にも繋がるよう取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に的確な情報を提供すると共に頻繁に見舞うことにより利用者の状況確認をし、病院関係者や家族等との情報交換しながら早期退院に向け相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意志確認可能な利用者については、日常の中のコミュニケーションからさりげなく終末期をどうしたいか等の話しをしていく中で本人の想いを確認していくよう努めている。重度化や終末期時は指針に沿い医師・看護師・職員・家族と話し合い本人の意向に出来るだけ沿った終末を迎えることが出来るよう努めている。	重度化した場合や終末期については契約時に本人・家族に説明してある。ホームでは家族と医師の協力を得ながら看取りを経験したことがあり、管理者や職員は本人の思いや家族の気持ちに沿った支援に取り組んでいる。	看取りも行っており、終末期の指針も作成されているが、高齢化・重度化に向かい職員の研修が必要ではないかと思われる。同時に終末期の際のマニュアルなどの作成も検討していただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時を利用し起こり得る急変や事故を想定し勉強会を行ったり、看護師による対応時の勉強会が行われ実践力を身に付けられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間を通して通報訓練や避難訓練、職員の連絡網訓練、又消防署へ立会い依頼をし消火訓練を行い全職員が安全且つ迅速に利用者を避難誘導出来るような態勢作りに努めている。地域との協力体制は現在構築の段階である。	年二回の大きな防災訓練が行われている。年間を通して月毎にミニ訓練が計画されており、通報訓練、避難訓練、職員連絡網の緊急通報訓練、消火訓練などを行っている。今年度スプリンクラーの取り付け工事が行われた。地域との防災協定については現在話し合いが行われている。	

グループホームあさかわ・あじさいユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常々より「一人の人」としての対応を、と職員は徹底して基本としている。適切でない言葉かけや対応が見られた場合はその都度又はミーティング時を利用し改善を職員全員で話し合い行っている。	管理者の思いでもある「利用者を『一人の人』として対応する」ことが職員の中に根づき、人生の大先輩として尊重し支援している。入居者に対しての言葉掛けや態度にも周知徹底されていることが窺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度のかかわりの中で選択肢の範囲を考慮したり、わかりやすく説明を加えたりし決して無理強いくることのないよう働きかけ、本人の思いや希望の表出や自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外食やドライブ・散歩への参加も無理強いはなく希望者を対象としている。お茶の時間も声かけは行うが、個々のペースにて又希望の場所好みの飲み物で摂ってもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出可能な利用者とは共に買い物に行き本人の気に入った洋服などを選んでもらっている。介助にての更衣が必要な利用者には何点かの中から選んでもらっている。又美容室等にも自ら申し出れない状態の利用者には定期的に声かけし了解を得て同行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食無理のない範囲で食事作りや後片付けを利用者・職員と一緒にしている。メニューにも利用者の好みを取り入れたり、週2回お好みメニューとし3品の中から食べたいものを選んでもらう機会を設けている	食事の支度は入居者自からが出来る範囲で参加している。職員も一緒に食卓につき、会話を交わしながら時間をかけてゆっくりと食事を楽しんでいる。選択メニューを取り入れており、好みのおかずを選ぶことができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量など確認の必要な利用者については記録をし確認している。季節の野菜や果物を使用し家庭的な料理も提供している。燕下や咀嚼状況等に応じたメニューも必要時には提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自菌の利用者には声かけや見守りを行ない毎食後行っている。義歯使用の利用者でも声かけ見守り、必要に応じてはスタッフ介助にて洗浄も行っている。		

グループホームあさかわ・あじさいユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄についての個々の習慣や行動パターンを知り、行動を見守りながら声がけをしたり必要な場合は本人了解の下同行させてもらっている。失敗してしまったことで気持ちの落ち込みを最小限に止められるように努めている。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、尊厳を大切にしつつさりげなく声がけを行っている。夜は紙おむつを使用せずにパットの上に布で押さえ不快感がないように支援している。昼間はパットとリハビリパンツからパットと布パンツに切り替え入居者の違和感を和らげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や便通を良くする食品摂取、運動の大事さを理解して頂けるように働きかけを行っているが、本人の身体機能の状況も踏まえかかりつけ医と相談し内服薬等の処方をしてもらいコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在の職員配置人数と利用者のレベルを考えると夜間帯の入浴希望は難しいが入浴回数やその日の時間帯は出来るだけ本人の希望に応じている。予定していても本人のその時の意向を尊重し無理強いはいしない。又身体の状況等により必要があれば毎日の入浴も行っている。	入浴は本人の希望に沿い、無理強いをしないで気持ちを尊重しながら行っている。一人ひとりパターンが違うので毎日入る方から週2～3回の利用の方もおり、本人本意の支援をしている。機械浴の設備もあるが入居者が嫌がるため使われていない。職員は「2人で介助すれば出来ますから」とあくまでも入居者の意向を尊重する姿勢を貫いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の午睡パターンをスタッフが把握し午前の活動に応じ臥床の声がけ等行っている。夜間入床時刻も個々に応じ精神的・肉体的に落ち着いた状態での臥床に配慮し気持ち良く休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬の内容をファイルにいつでも確認・理解できる体制をとっている。服薬時個々のレベルに合わせ介助するだけではなく、本人に日付や名前の確認等もしてもらっている。又排便・血圧等日々の状況を観察した上で内服の必要性を勧告し、主治医や看護師と連携を取り対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の職歴等も考慮し喜びや楽しみでおこなってもらえるよう日常生活での役割を行っている。嗜好品は日々何を好まれるか直接聞くなど本位を重んじている。楽しみごと・気分転換では外食やイベントの開催・ボランティアの受け入れ等行っている。		

グループホームあさかわ・あじさいユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常会話からも、行きたい所や食べたい物等の希望を伺いそれに沿えるよう努めている。普段は行けないような場所へは個別の外出等で出かけている。日常の買い物にはその都度希望があれば行っている。	お天気の良い時は散歩が日常的に行われている。訪問調査日もお天気が良かったので紅葉を見ながら近くの飯綱高原まで車で出かけて自然と親しんでいた。本人の希望に沿い外出の機会を作り支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金所持は問題が生じる事を懸念し職員管理とさせてもらっているが、本人・家族の了解のもと自己管理している方もいる。外出の際には好きな物を自己判断にて購入出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にてスタッフが付き添い電話をかけてもらっている。家族より贈られてきた物があれば本人より家族へ届いたことのお知らせやお礼の電話を入れている。手紙も本人が書けなければ代筆し本人の言葉で伝えるなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度・湿度に注意しエアコンや窓を開けるなど調節には配慮している。玄関やテーブル等に季節の花を用意し利用者に生けてもらい皆さんに楽しんでもらっている。	玄関には大きな蘭が置かれ気持が華やぐ。共有空間に飾られた入居者の刺し子は手作りの温かさが感じられる。光を取り込めるよう設計されているのか明るい室内である。浴室は左右からも介助出来るよう工夫されており、トイレは広く車いすにも対応が可能である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	雑誌・新聞を用意し自由に読んでもらっている。又ピアノを設置し昼間好きな時間に弾いてもらっている。畳の場所にはテレビを設置してあり冬場はこたつをおき自由に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具・小物を居室にそのまま設置し自宅で過ごしていた時の自分の部屋と同じように過ごせる場所となるよう支援している。	居室には入居者が大切にしてきた小物や仏壇があり、写真も飾られ居心地よく過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ワーカー等を使用している方でもトイレや洗面台まで移動出来るスペースを確保している。又個々の食器等を用意し壊れたときも本人と一緒に購入のため外出し選んで購入している。		